

旅立つ心を起こして



新しい一年の夜明けを迎えました。

＊この紙面に何を書こうか、と考えていたところ、「理屈っぽい自分」が耳元でさめた言葉をささやきました。「どうせ、何を書いても同じじゃないか。恰好いいことを書いたってなにも変わりはない。新しい一年はただ、カレンダーの取り換えだけだよ」と。それに対して「真面目な自分」が反発を感じました。「せっかく新しい年を迎えているのに、2014年に対する反省をふまえた上で、新たに心を引き締めて、前向きに考えるべきじゃないか」と。—「真面目な自分」が「理屈っぽい自分」を追い払ってしまいました。

＝相撲界では取組の中で館内を沸かせるのは初顔合わせの取組みです。それに不安や期待が伴うからでしょう。—新しい年を「取り組む」に当たって私たちも似た気分を味わっているような気がします。

—人生においても、信仰生活においても一年の「旅」がまた始まります。2015年の始めに信仰生活において新たに「旅立つ」ということについて考えることは大切なことではないでしょうか。

＊「神から来て神に戻る」その「旅」をしたイエスは、マタイ、マルコ、ルカ、による福音書の中でガリラヤからエルサレムへと「旅」をした者として紹介されています。その「形」はアブラハムをはじめ、旧約時代において神に出会い、そのために「旅立った」数えきれないほどの信仰深い人たちのことを思い起こさせてくれます。





—「信仰」はよく「宝」にたとえられて
きました。したがって、その「宝」を「守
らなければならない」とくりかえし教え続
けられました。しかし、イエスご自身の
言葉を読むとわかるように、信じることは
何よりご自分の「後について行く」ことを
意味しています。そのことを思うと、「守る
べき宝」よりも「旅をする」というイメ
ージの方がはるかに「信じること」に相応
しいものです。

—信じることイコール宝を守ること。

—信じることイコールイエスの後に(=イ
エスに倣って)人生という「旅」(巡礼)
をすること。

この二つの捉え方は、ずいぶん異なったこ
とを表現しています。明らかに「信じる
こと」に対する理解において「ずれ」とも
いえる大きな違いが浮かび上がっていま
す。簡単に「慣れ」に居座ってしまう私た
ちにとって、年の始めに「自分の信じ方は
どうなっているか」と自分に問いかけるこ
とは「旅立つ」ことへの第一歩になるの
ではないでしょうか。

*さらに、共同体として、新しい年の間、
お互いに寄り添い、支え合い、助け合い、
協力し合いながら共にイエス・キリスト
の後について行くように励んでしましょ
う。この行橋・豊津の地でイエスの福音が
多くの人々の心の光と力になるために
私たちは努力を惜しまないように心がけ
ましょう。喜びと希望のうちに心一つ
にして、共に行動をしようとすれば、今年
も私たちは確実にキリスト者としての
「旅」を続けることができるでしょう。

—皆さん—特に様々な病に冒されている
方々の上に神の祝福が豊かに注がれるこ
とを心からお祈り致します。



～皆さん新年明けましておめでとう
ございます。～